

**2023 年度 一般社団法人 日本文化人類学会
定時社員総会 議事録**

日時：2023 年 6 月 4 日（日）15：10～16：40

場所：場所：第 57 回研究大会会場

県立広島大学 広島キャンパス 大講義室(2143 教室) オンライン併用

議決権のある社員総数：57 名

総社員の議決権数：57 個

出席社員数：40 名

委任状：17 通

この議決権の総数：57 個

出席者（社員（第 30 期代議員））：

真島一郎、赤堀雅幸、東賢太朗、綾部真雄、飯嶋秀治、飯田卓、石田慎一郎、伊藤泰信、岩谷彩子、梅屋潔、岡田浩樹、小川さやか、風間計博、門田岳久、上水流久彦、川田牧人、岸上伸啓、木村周平、窪田幸子、栗本英世、湖中真哉、小西公大、佐川徹、佐久間寛、里見龍樹、島村一平、白川千尋、高倉浩樹、田村うらら、津村文彦、中川理、中谷文美、名和克郎、野澤豊一、野林厚志、浜田明範、速水洋子、藤野陽平、三尾裕子、箕曲在弘

議決権委任状提出者（社員（第 30 期代議員））：

石井美保、奥野克巳、金谷美和、川口幸大、佐々木重洋、佐々木史郎、椎野若菜、シンジルト、関根久雄、曾我亨、田所聖志、棚橋訓、増田研、松村圭一郎、丸山淳子、森山工、箭内匡

議長：三尾裕子

議事録署名人：岩谷彩子、中川理

議題

1. 第 1 号議案：2022 年度事業報告について（業務執行理事（庶務担当））
2. 報告：学会事業の見直しおよび委員会再編について（代表理事）
3. 報告：2023 年度事業計画について（業務執行理事（庶務担当））
4. 第 2 号議案：2022 年度決算について（業務執行理事（会計担当））
5. 報告：2023 年度予算について（業務執行理事（会計担当））
6. 報告：学会声明発出に向けて（代表理事）
7. その他

配布資料

資料 1. 社員総会議題案

資料 2. 2022 年度事業報告・2023 年度事業計画（案）

資料 3. 学会事業の見直しおよび委員会再編について

資料 4. 2022 年度決算（案）

資料 5. 2022 年度損益計算書・事業費内訳計算書・貸借対照表（案）

資料 6. 会計監査報告

資料 7. 2023 年度予算（案）

資料 8. アイヌ民族に関する研究倫理指針（案）を契機とする学会声明発出に向けて

議事の経過及び結果：

- ・定款第 16 条に基づき、出席している社員の中から議長の立候補、推薦を募り、三尾裕子社員が議長に選出された。
- ・上記の通り定足数を満たしたので議長は定刻に開会を宣言し、資料 1 に従い以下の議事を行った。
- ・定款第 21 条に基づき出席している理事の中から議事録署名人として岩谷彩子理事、中川理理事を選任した。
- ・出席している社員の中から東賢太郎社員、小西公大社員が開票に立ち合い、票数の集計を行った。

1. 第 1 号議案：2022 年度事業報告について

- ・伊藤泰信第 30 期業務執行理事（庶務担当）より、2022 年度事業報告（案）について資料 2 に基づき説明があり、審議・投票の結果、原案通り承認された。（投票結果：議決権数 57 票のうち、賛成 57 票、反対 0 票）

2. 報告：学会事業の見直しおよび委員会再編について

- ・真島一郎第 30 期代表理事より、学会事業の見直し及び委員会再編について資料 3 に基づき報告がなされた。現状の課題として、①理事会における委員会数の増加、②各委員会の役職を分担する理事にかかる過重な業務負担、③学会予算のひっ迫、が挙げられた。
- ・これらの課題に対する本案の骨子について報告がなされた。
 - ① 各種委員会を常駐組織として捉えず、委員会編成に機動性を導入する。学会の中核的な事業に携わる委員会以外の委員会を時限付の「特別委員会」とし、設置・解散について各期理事会で機動的に検討及び承認を行うものとする。期の途中で設置・解散も妨げない。
 - ② 理事・代議員は、学会の各種事業を実働の主体としてみずから背負うより、むしろ

声掛けの中心となり、学会事業に関する一般会員の積極的な参画、関与を促すように努める。

- ③ 旅費をはじめとする会合経費を、次年度予算案の策定時点から各委員会に配分せず、学会予算に全体の会合経費として確保した上で、各委員会から必要に応じて経費申請を行う体制とする。

3. 報告：2022 年度事業計画について

- ・伊藤第 30 期業務執行理事（庶務担当）より、2023 年度事業計画について資料 2 に基づき報告がなされた。社員からの指摘を受け文言調整を行った。

4. 第 2 号議案：2022 年度決算について

- ・佐川徹第 30 期業務執行理事（会計担当）より、2022 年度決算書（案）について資料 4 及び 5 に基づき説明がなされた。
- ・栗本英世監事より、資料 6 に基づき、2022 年度の計算書類及びその付属書類について綿密に調査しいずれも正確かつ適当であることを認めた旨が報告された。
- ・審議・投票の結果、原案通り承認された。（投票結果：議決権数 57 票のうち、賛成 57 票、反対 0 票）

5. 報告：2023 年度予算について

- ・佐川第 30 期業務執行理事（会計担当）より、2023 年度予算について、資料 7 に基づき報告がなされた。特に、従来の「研究大会預け金」の費目について公認会計士に確認の上で「研究大会準備仮払い金」へ変更したこと、「研究大会アクセシビリティ対応補助金」の費目を追加したことが説明された。また、社員からの指摘を受け文言調整を行った。

6. 報告：学会声明発出に向けて

- ・真島第 30 期代表理事より、アイヌ民族に関する研究倫理指針（案）を契機とする学会声明発出について、資料 8 に基づき報告がなされた。

北海道アイヌ協会・日本人類学会・日本考古学協会・日本文化人類学会の 4 学協会による指針案についての協議の経緯説明と、本件に関する倫理委員会主催連続シンポジウムの開催や、多様なアイヌ民族の方々へのヒアリング等、本学会倫理委員会及びアイヌ特別小委員会の活動について説明がなされた。

- ・今期理事会では情報共有と意見交換を重ねた結果、本件に関し、謝意を込めた学会からの何らかのメッセージの発出が承認されたことが報告された。今後は、実際のメッセージ発出に向け、その内容や方向性などについて慎重に検討を進めていくこととした。その際、必要に応じて代議員や会員もその議論に参加できるような手段も検討すること

とした。

7. その他

- ・窪田幸子社員より、自身が務めてきた IUAES 副会長を今期で退くためこのままでは IUAES 執行部に本学会会員が不在となることについて説明があり、もし執行部の活動に関心のある会員の方がいれば窪田社員まで連絡するよう依頼がなされた。
- ・宇田川妙子会員（国立民族学博物館）より、国立民族学博物館の活動についてアナウンスがあり、研究事業、展示、研究プロジェクト公募、若手研究者奨励セミナー等の若手研究者支援、総合研究大学院大学の博士課程の専攻が人類文化研究コースに統一されたこと等について説明がなされた。

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、16 時 40 分閉会した。